

連載



岡野 弘典

【経歴・資格】技術士（経営工学部門、機械部門）、TOEIC900点超など  
1983年広島県三原市生まれ。生産管理、生産技術が専門。  
著書に生産管理の基礎知識 ビジネス・キャリア検定副読本（秀和システム、2023年）がある。



Vol.25

物流の2024年問題に向けてみんなでできること

キーワード 2024年問題、ロジスティクス、生産管理、経営工学、サプライチェーン

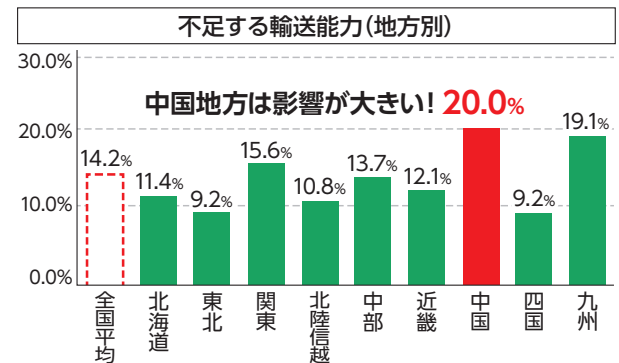
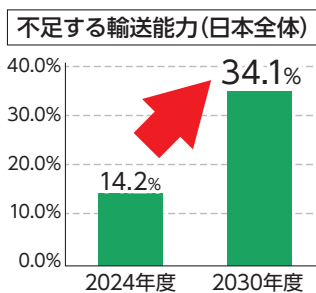
●当連載について【広島県中小企業団体中央会】×【日本技術士会中国本部】

急激な社会変化への対応が求められる中小企業に、より適切な支援が実施出来るように、広島県中央会では日本技術士会の中国本部と連携し、技術的側面の支援体制を強化しました。

組合内あるいは企業内に、自社単独で解決困難な技術的課題がある場合は、連携支援部にご相談下さい。(TEL 082-228-0926)

■物流の“2024年問題”が 広島県を直撃！

2024年4月から自動車運送業の時間外労働の上限が960時間へ低減される等の影響から輸送能力の大幅な不足が発生する、いわゆる「物流の2024年問題」が懸念され



持続可能な物流の実現に向けた検討会資料(2023年8月)より著者作成  
2019年度を基準とした2024年度の試算値

ています。持続可能な物流の実現に向けた検討会では、輸送能力不足を全国平均で14.2%と試算しています(2019年度を基準とした2024年度の試算値)。特に、中国地方は全国でも最も影響が大きい(20.0%)とされています。このため、広島県で事業を営む私たちに物流の2024年問題が直撃し、避けては通れないと考えられます。広島県はピンチだ！という意識を持つ必要があります。

実際に中国新聞の2024年問題に関する調査によりみると、中国地方の主要企業の12.1%が「大きな悪影響がある」、65.0%が「やや悪影響がある」と回答しており、8割程度の企業が懸念を感じていることが分かります(2024年1月2日朝刊より)。

■トラック事業者だけでなく 「みんな」ができることがある

この問題に対処するためにはトラック事業者による課題解決はもちろん大切です。しかし、サプライチェーンに関わる事業者「みんな」にできることがあります。例えば、

明治乳業は脱脂粉乳用の袋を角型に変更しました。従来1袋ずつ手作業でトラックに積み込んでいましたが、これにより、パレットに載せた状態でフォークリフトを活用してトラックへ積み込むことが可能となりました。この改善によりトラックへの積み込み時間が削減され、ドライバーの拘束時間が大幅に低減しました。さらに最近では、事業者だけではなく消費者も再配達を低減する工夫に取り組んでいます。このほかにも、トラック事業者以外での取組みが広がってきています。「みんな」が物流に対して何らかの役割を担っていることを理解し、ドライバーの拘束時間を減らすための改善案を考えていきましょう。物流の2024年問題へ対処するためにサプライチェーン全体で創意工夫して取り組んでいくことが重要なのです。



## ■物流改革は企業にとって大きなチャンス

物流への取り組みはネガティブな面だけではありません。戦略的に行えば、企業の競争力を大幅に向上することができます。最近では、物流=ロジスティクスというイメージが定着していると思います。ロジスティクスの意味(語源)は戦争中に兵員や物資の配置を行う「兵站(へいたん)」です。物流分野でロジスティクスという言葉が使われているのには、物流を戦略的に行っていくことで企業が競争力をつけ、戦っていくことができるというメッセージが込められています。実際、世界的に成功している企業の多くは物流を戦略的に行っています。例えばAmazonはその顕著な事例の一つです。物流への取り組みを成長へのチャンスであるとポジティブにとらえ、戦略的に行っていきましょう。このような考え方を戦略物流思考と呼びます。

## ■どのような手順で改善していくか

具体的にはどのように改善していくのでしょうか？厚生労働省、国土交通省および全日本トラック協会がまとめた「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン」の中では、以下の7つのステップでPDCAサイクルを回しながら改善を進めることが提案されています。本資料は無料でダウンロードできますので、ご活用ください。

- ステップ1:** 荷主とトラック運送事業者の双方で、トラックドライバーの労働条件改善の問題意識を共有し、検討の場を設ける
- ステップ2:** 労働時間、特に荷待ち時間や荷役時間の実態を把握する
- ステップ3:** 荷待ち時間の発生等、長時間労働の原因を検討、把握する
- ステップ4:** 荷主とトラック運送事業者の双方で、業務内容を見直し改善に取り組む
- ステップ5:** 荷主とトラック運送事業者間での応分の費用負担を検討する
- ステップ6:** 改善の成果を測定するための指標を設定する
- ステップ7:** 指標の達成状況を確認、評価することでさらなる改善に取り組む

## ■経営工学部門の技術士は物流の専門家

物流の問題に取り組もうと思っても、「どこから手を付ければよいか分からない」というのが皆さんの率直な思いでしょう。そんな時に頼りになるのが、私たち技術士です。特に経営工学部門の技術士の中には物流の専門家がたくさんいます。技術士は科学技術的なアプローチで論理的に物流の問題の解決に取り組んでいます。例えば、①物流チャート、②運搬工程分析、③流動数曲線、④IE(インダストリアルエンジニアリング)手法などの経営工学的分析手法を用いて、問題点を正確に洗い出したり、改善案を提案したりすることが得意です。物流で困っていることがある方、物流改革に取り組んで競争力を高めていきたいと思われる方は、是非ともお気軽に技術士にご相談ください。

・持続可能な物流の実現に向けた検討会  
最終取りまとめ(経済産業省)



・荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン

